

# **PALTEK**

## **(JASDAQ:7587)**

**2015年12月期 第2四半期  
決算説明会資料**

**2015.8.5 (水)**

FY2015 Q2 Results Reporting

© 2015 PALTEK Corporation. All rights reserved.

### **アジェンダ**

- ① 2015年12月期 第2四半期  
業績結果**
- ② 2015年12月期 業績予想**
- ③ 事業の進捗状況**

1

## 2015年12月期 第2四半期 業績結果

## 連結業績結果(第2四半期累計期間)

(百万円)	2014年第2四半期		2015年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	11,677	100.0%	13,308	100.0%	1,631	14.0%
売上総利益	1,653	14.2%	2,141	16.1%	488	29.5%
販管費	1,235	10.6%	1,394	10.5%	158	12.9%
営業利益	418	3.6%	747	5.6%	329	78.8%
経常利益	389	3.3%	713	5.4%	324	83.2%
四半期純利益	228	2.0%	454	3.4%	226	99.0%
1株当たり四半期純利益	19.99円	—	40.93円	—	20.93円	

### 主な増減要因

- 売上高は、半導体事業が大幅に増加
- 売上総利益は、売上高の増加および仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が増加したため増加
- 販管費は、人員が増加したため増加

(百万円)	2014年第2四半期		2015年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	11,009	94.3%	12,524	94.1%	1,515	13.8%
デ ザ イ ン ス サ ー ビ ス	602	5.2%	704	5.3%	102	17.0%
そ の 他	66	0.5%	79	0.6%	13	20.3%
売 上 高 合 計	11,677	100.0%	13,308	100.0%	1,631	14.0%

### 主な増減要因

- 半導体事業は、主に産業機器向けを中心に新たに取引を開始したお客様の売上高が増加。その他、医療機器、ブロードバンド向け通信機器向け等も増加

## ■ 売上総利益率の変動は、以下の2つが要因

- ・ ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減が、2014年第2四半期では△31百万円であったが、2015年第2四半期では356百万円となった

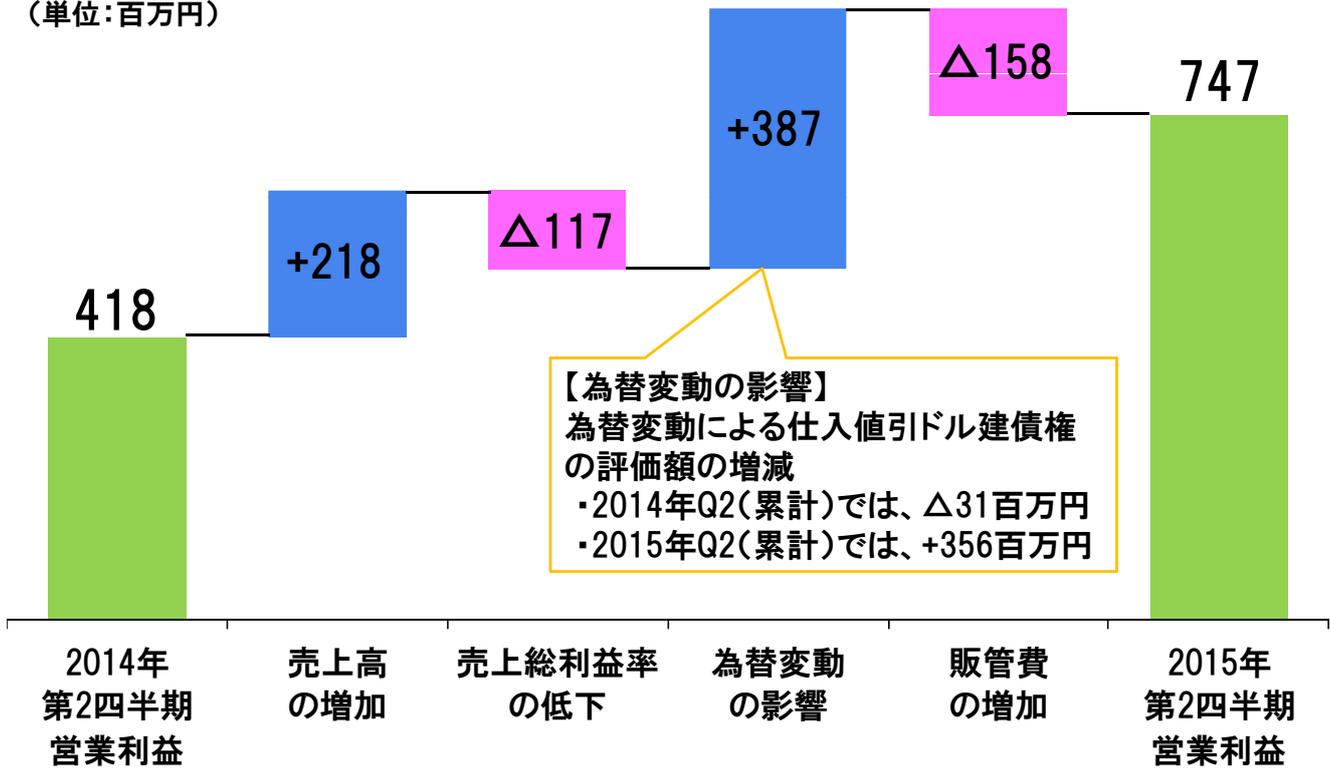
(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2014年第2四半期		2015年第2四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	1,653	14.2%	2,141	16.1%
(うち為替の影響額)	△31	△0.2%	356	2.7%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	1,684	14.4%	1,785	13.4%

- ・ 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が増加

# 営業利益の増減分析

(単位:百万円)

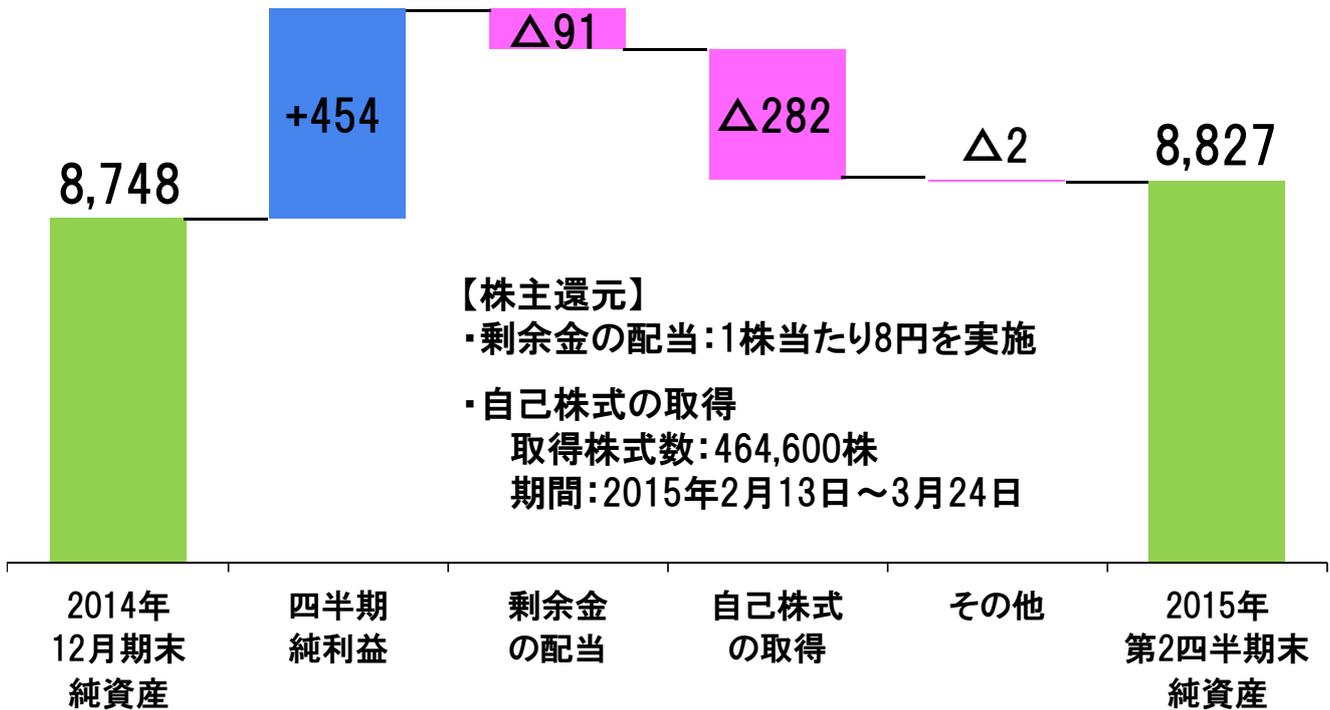


# 連結貸借対照表の状況

	(百万円)	2014.12末	2015.6末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	2,058	1,999	△59	
	売上債権	4,496	5,214	717	売上高増加に伴い増加
	商品	3,139	4,175	1,036	今後の売上増に備え調達
	その他流動資産	1,765	3,893	2,127	主に未収入金が大幅に増加
	固定資産	577	568	△9	
資産合計		12,037	15,850	3,813	
負債純資産内訳	仕入債務	784	2,271	1,487	在庫の調達に伴い増額
	短期借入金	780	3,090	2,310	仕入先への支払いに充当するため増額
	その他流動負債	1,398	1,348	△50	
	固定負債	325	313	△12	
	純資産	8,748	8,827	78	
負債・純資産合計		12,037	15,850	3,813	

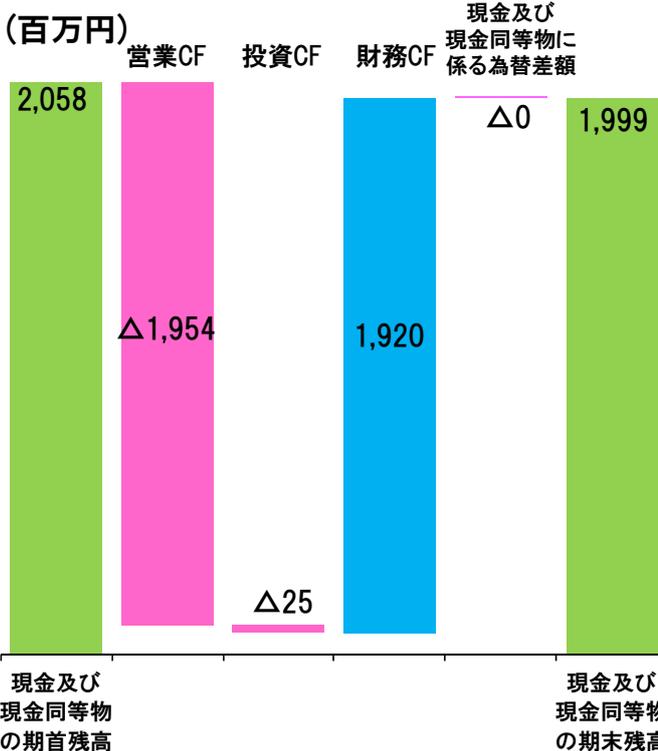
# 純資産の増減分析

(単位:百万円)



# 連結キャッシュ・フローの状況(第2四半期累計期間)

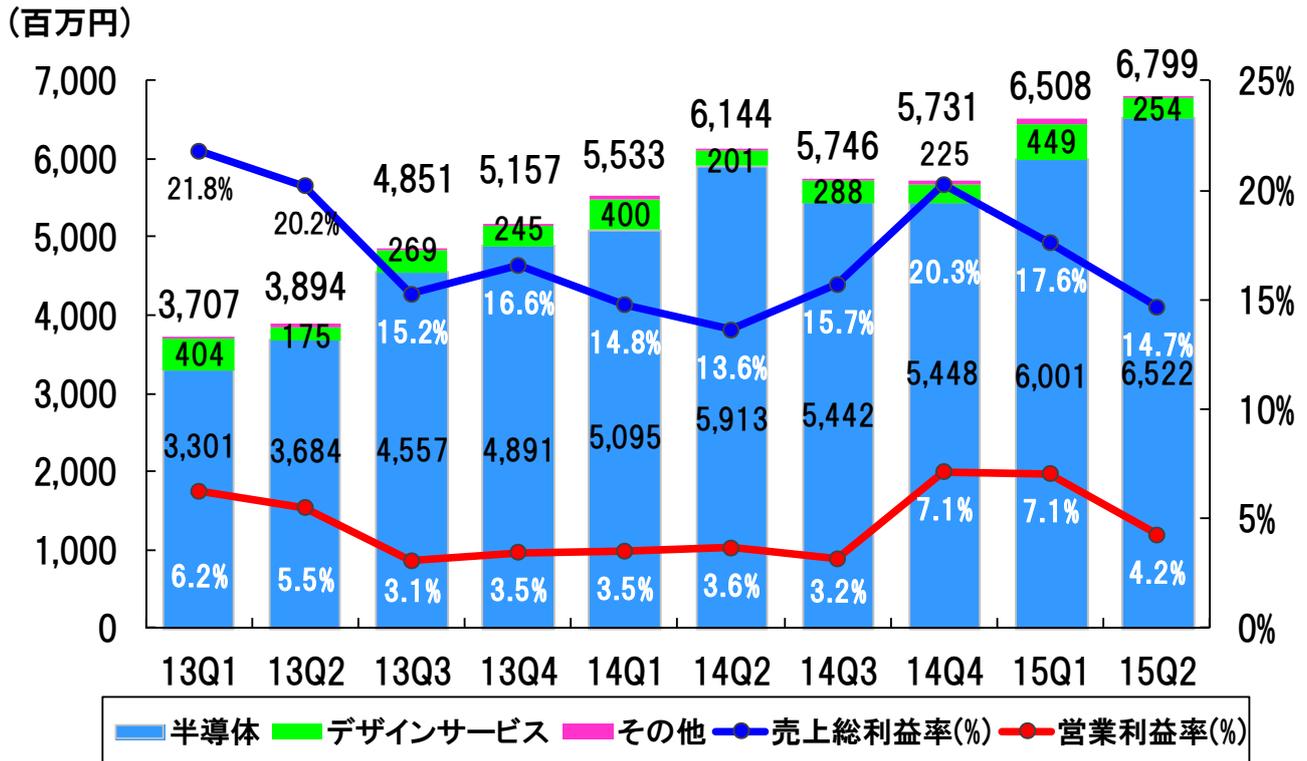
## 2015年第2四半期のキャッシュフローの動き



(百万円)	2014年第2四半期	2015年第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,198	2,058
営業CF	648	△1,954
投資CF	△24	△25
財務CF	243	1,920
現金及び現金同等物の期末残高	2,067	1,999

## 2015年第2四半期のキャッシュフローの動き

- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益の計上および仕入債務が増加した一方で、売上債権、たな卸資産および未収入金が増加したこと等により支出
- 投資CF: 有形固定資産を取得したこと等により支出
- 財務CF: 借入れの実施等により収入

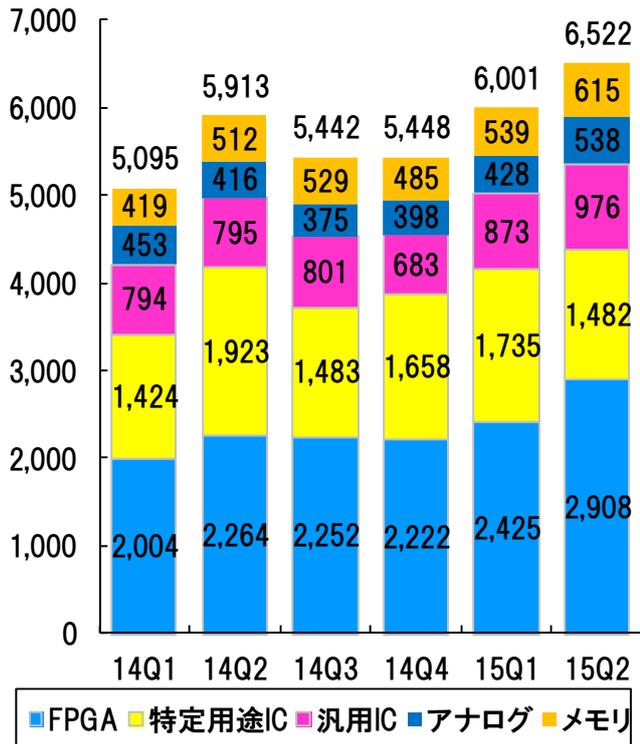


## 事業別の実績



# 半導体事業の状況（製品別）

(百万円)



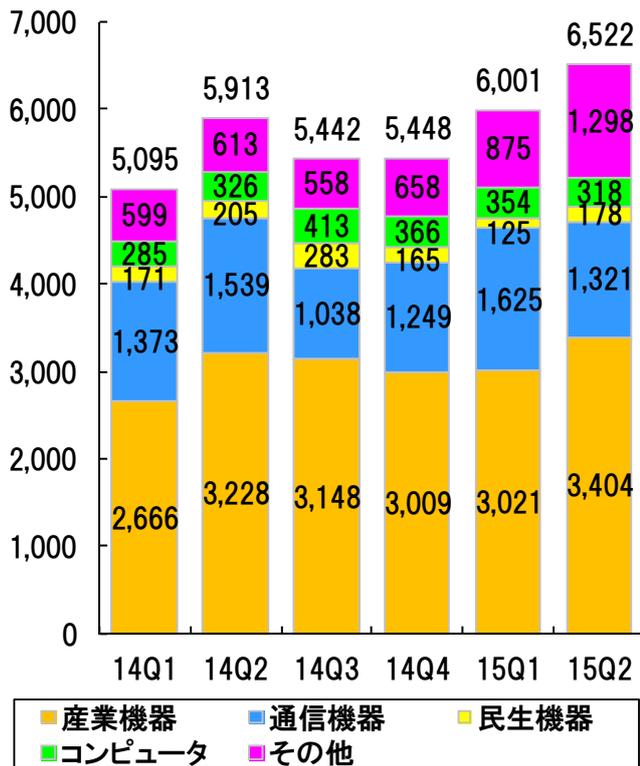
### 四半期業績の推移

- FPGA**  
新たに取引を開始したお客様の売上が増加、その他医療機器向けが堅調
- 特定用途IC**  
PC向けタッチパッド、サーバー向けインタフェース製品等が減少
- 汎用IC**  
オフィス機器、PC、産業機器向け等が増加
- アナログ**  
医療機器、計測機器、産業機器向け等が増加
- メモリ**  
メモリカード、産業機器、データセンター向け等が増加



# 半導体事業の状況（用途別）

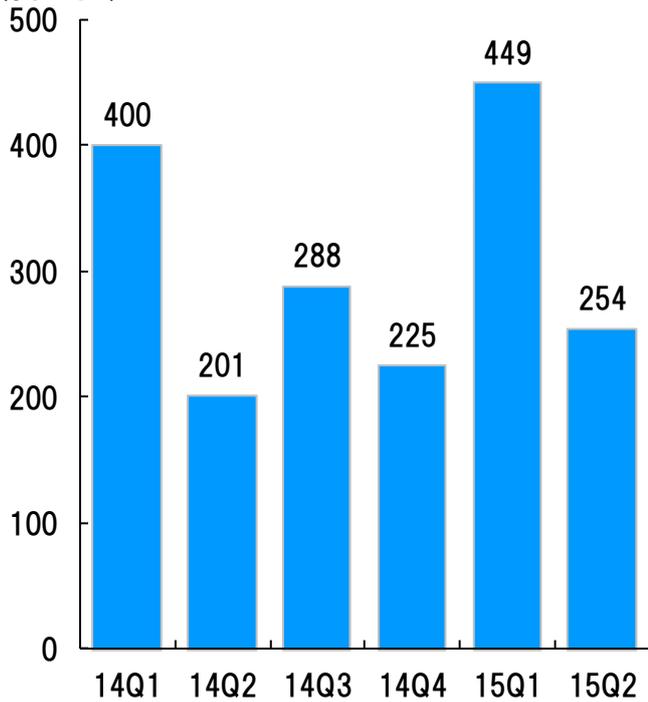
(百万円)



### 四半期業績の推移

- 産業機器**  
医療機器、ファクトリーオートメーション、等が増加
- 通信機器**  
携帯電話基地局等の通信インフラ向けが減少
- その他**  
FPGAを中心に2次代理店向け等が増加

(百万円)



## 四半期業績の推移

- 医療機器向けは減少するも、放送機器および監視カメラ向け装置、等が堅調に推移
- デザインサービス事業においては、お客様(3月決算会社)の予算との連動性が高いため、第2四半期の売上高は第1四半期に比べ、減少する傾向

2

## 2015年12月期 業績予想

## 半導体事業での売上高が想定よりも増加することが見込まれるため、7月9日に業績予想を修正

### ■ 売上高について

- 半導体事業において、上期の売上高増加に加え、下期において新たに取引を開始したお客様を中心に、産業機器、医療機器向けなどが堅調に推移すると見込まれるため増加

### ■ 営業利益について

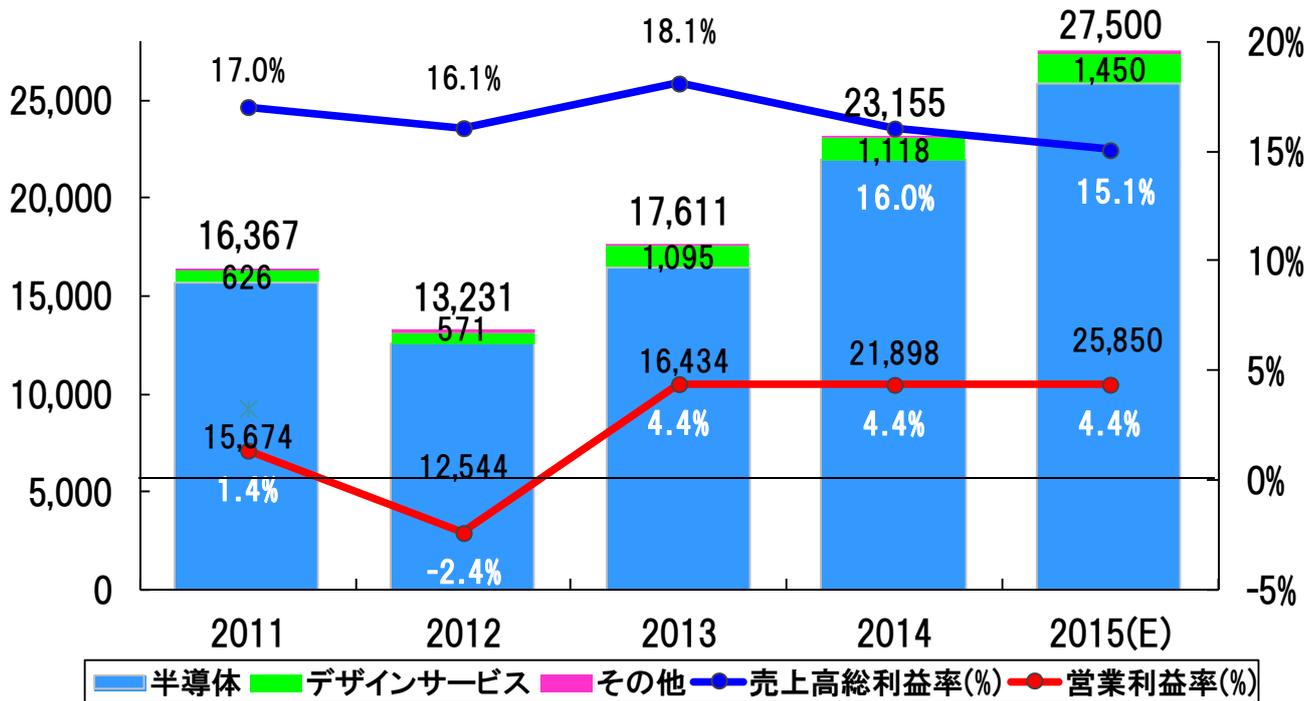
- 【売上総利益】下期において売上高は増加する一方で、新たに取引を開始するお客様への売上総利益率は当初は低下すること。また、半導体事業において、競争激化のため売上総利益率が低下傾向にあるため、売上総利益率は低下する見込み
- 【販管費】各種プロジェクト費用、人件費などの精査を行い、前回業績予想から減少
- 【営業利益】下期の営業利益は前回業績予想から減少するものの、上期において仕入値引ドル建債権の評価額が増加したことを受け、通期では営業利益は増加

FY20

red.

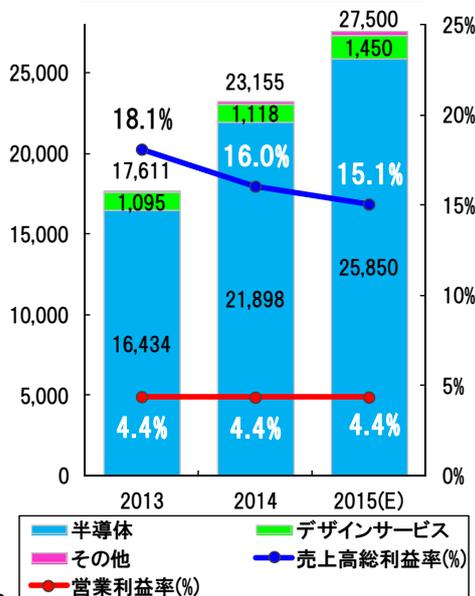
(百万円)	業績予想(4/9時点)			業績予想(8/5時点)			上期増減		通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	12,500	13,500	26,000	13,308	14,191	27,500	808	6.5%	1,500	5.8%
売上総利益	2,020	2,150	4,170	2,141	1,998	4,140	121	6.0%	△30	△0.7%
売上総利益率	16.2%	15.9%	16.0%	16.1%	14.1%	15.1%	—	—	—	—
販管費	1,470	1,650	3,120	1,394	1,545	2,940	△75	△5.2%	△180	△5.8%
営業利益	550	500	1,050	747	452	1,200	197	35.8%	150	14.3%
営業利益率	4.4%	3.7%	4.0%	5.6%	3.2%	4.4%	—	—	—	—
経常利益	530	480	1,010	713	431	1,145	183	34.5%	135	13.4%
当期純利益	325	300	625	454	280	735	129	39.7%	110	17.6%

(百万円)

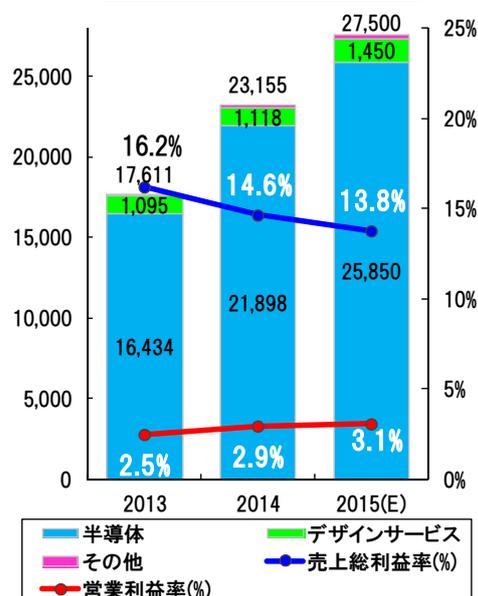


- 2013年、2014年では、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加し、原価を押し下げた。2015年第2四半期(累計)でも同債権の評価は増加
- この評価額の増加を含む為替の利益に与える影響を排除した場合、2015年12月期については実力値ベースでは増益

為替の影響を除かない場合



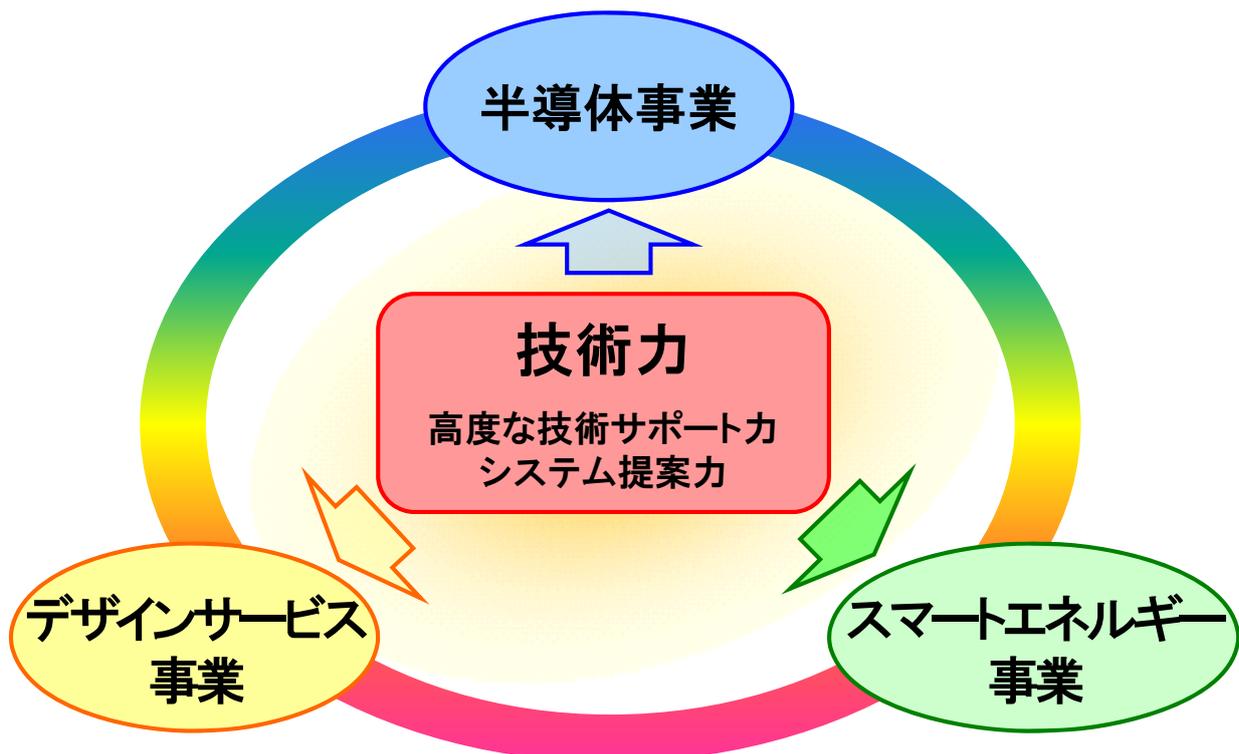
為替の影響を除いた場合



3

## 事業の進捗状況

## PALTEKの事業分野





## Explorer

### デザインサービス事業

- ・画像・映像・音声処理の技術が強み
- ・放送(4K/8K)、医療、セキュリティ分野を中心に、受託設計・ODM・自社製品を展開



## Technology Innovation

### 半導体事業

- ・センサーとMEMSの2つの技術を持つ稀有な会社
- ・今後、MEMS技術でセンサーの小型化などを視野に展開



## ■ 事業の方向性

- ・ 安定的に収益を確保する事業を目指す

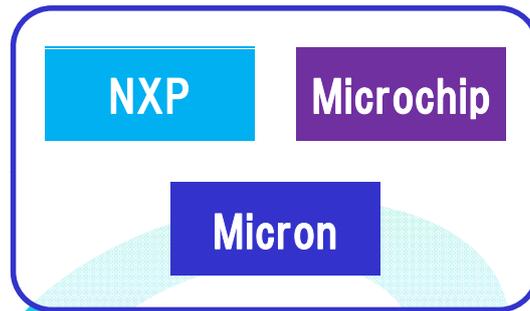
## ■ 戦略

- ・ 付加価値高い製品の取り扱い
- ・ FPGA市場の更なる拡大
- ・ センサー/ソフトウェア市場の開拓
- ・ デマンド・クリエーションの強化
- ・ 成長市場: 通信、産業、医療、放送への注力
- ・ 業務効率の向上

2014年12月期売上構成比



【汎用IC・メモリ】幅広いマーケットに訴求



【FPGA】システム提案強化



【特定用途IC/ソフトウェア】有望プロダクトを強化



## ■ 新規顧客/分野の拡大

- 通信機器 :LTE Advanced, 5G
- 産業機器, 放送機器, 医療機器  
: Industry 4.0, 4K/8K関連機器, 次世代医療機器
- 車載機器 :ADAS(先進運転支援システム)、カーナビ

## ■ 付加価値提案の強化

- 新製品提案力の強化 (20nm製品)
- トータルソリューション提案
  - FPGA + アナログ + メモリ + 高速インタフェース + デザインサービス

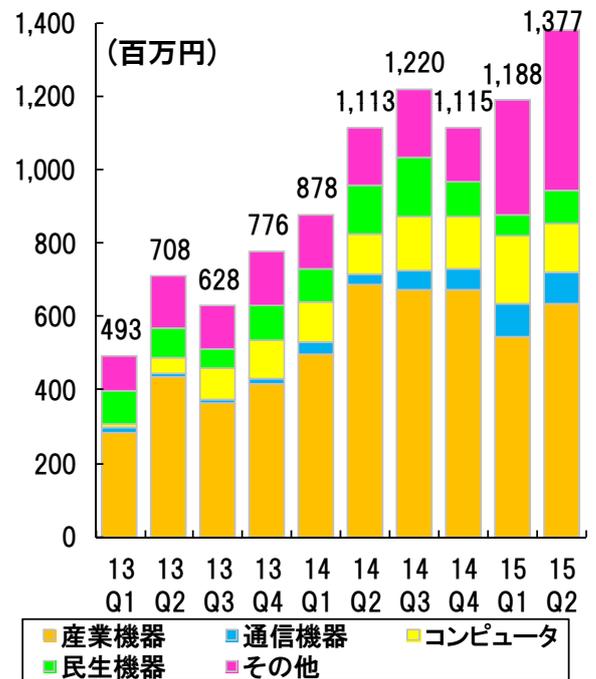


## ■ 第2の柱となる製品は堅調

- ・ ファクトリーオートメーション
- ・ 計測機器
- ・ 医療機器
- ・ 携帯情報端末
- ・ マルチファンクションプリンター

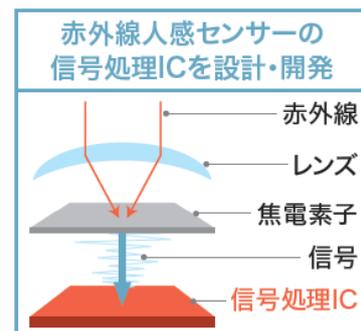


第2の柱となる4製品の売上推移



## ■ 赤外線人感センサー向けIC開発

- ・ 最終サンプル出荷し、センサーへの組込み最終評価を実施中



## ■ 赤外線カメラのリーディングカンパニー

フリーアシステムズ社の赤外線カメラモジュールを提案実施中

- ・ 産業機器(検査機器、防災機器、産業向け携帯情報端末)
- ・ 監視カメラ



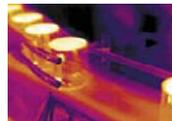
<セキュリティ>



<人命救助>



<オートメーション>



<検査診断>



<エネルギー効率化>



## ■ IHSと販売代理店契約締結し、「IHS Goldfire Cloud」、 「IHS 4DOnline」の2製品の販売を開始

- IHS Goldfire Cloud
  - 製品開発における用途調査、課題調査、競合調査、自社製品評価、特許情報調査などができるデータベース
  - アイディア創出から生産課題の解決までの様々な調査活動に活用
- IHS 4DOnline
  - 3,000メーカー、5億点以上の半導体・電子部品に関する情報のデータベース
  - 部品の技術情報・環境情報の調査、スペック比較、互換品・代替品の調査等に活用

### IHSについて

1959年創業のIHS(NYSE:IHS、本社:米国コロラド州)は、エネルギー、自動車、電気、化学、航空宇宙等様々な業界におけるデータ分析と予測サービスを提供し、世界150カ国の企業と政府機関の意思決定と戦略策定を支援している。

IHSプロダクトデザイン部門では、あらゆる製造業を対象に、研究者や技術者のイノベーション、意思決定、業務改善を支援する製品・サービスを提供している。

## ■ 事業の方向性

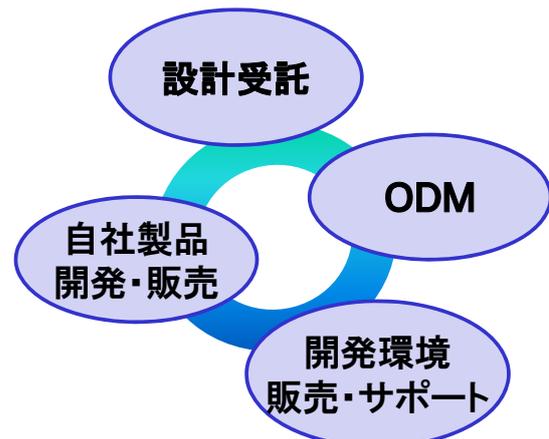
- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、付加価値の高い製品・サービスを提供

2014年12月期売上構成比



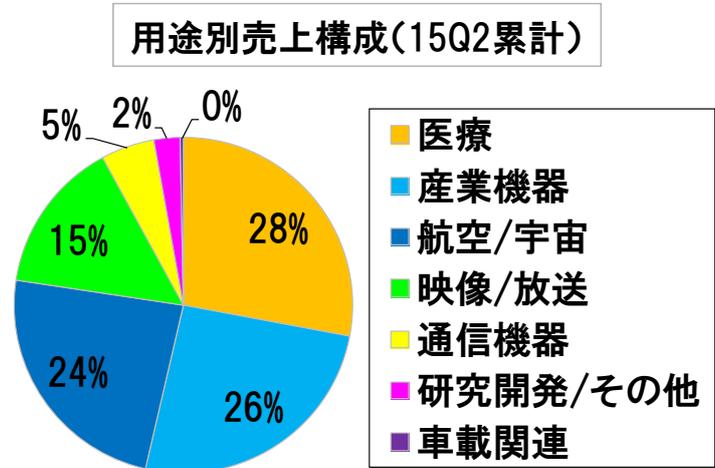
## ■ 戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- 開発環境販売・サポート  
(ツール、評価ボードの販売等)



## ■ 医療機器、産業機器、航空/宇宙分野での設計受託・ODM(※)が堅調

- ・ 次世代内視鏡の開発
- ・ MRI/CTスキャナ向けエンジンボードの提供
- ・ ファクトリーオートメーションの設計受託



## ■ ODMの展開

- ・ 医療分野を中心に、14Q2累計売上高の約50%を占める

※ ODM(Original Design Manufacturing):

発注元企業のブランドで販売される製品を設計するだけでなく、製造も行うこと

## ■ 8Kの画像合成装置の開発

- ・ 8K映像に文字情報や他の映像を合成する装置
- ・ ハードウェアからソフトウェアまでを開発
- ・ FPGAで実現

## ■ 今後、この技術を活用し横展開を図る

- ・ 放送機器
- ・ 医療機器

### ■ 通信向けの大型ソフトウェア開発を受託

- 当社取扱い特定用途ICの採用により、半導体事業との相乗効果あり

### ■ 大型無線機器の試作開発を受注

- FPGAの採用により、半導体事業との相乗効果あり

### ■ IoTビジネス カード型センサーの設計受託

- 物流会社で高額なものを運送するためのカード型センサー
- 温度、湿度、気圧、照度、衝撃(加速度)などのデータを蓄積し、NFCにてデータ伝送
- 【設計内容】ハードウェア回路設計、アートワーク設計、基板製造・実装、筐体設計・製造・組立、ソフトウェア・ARMファーム設計、Windowsアプリ設計

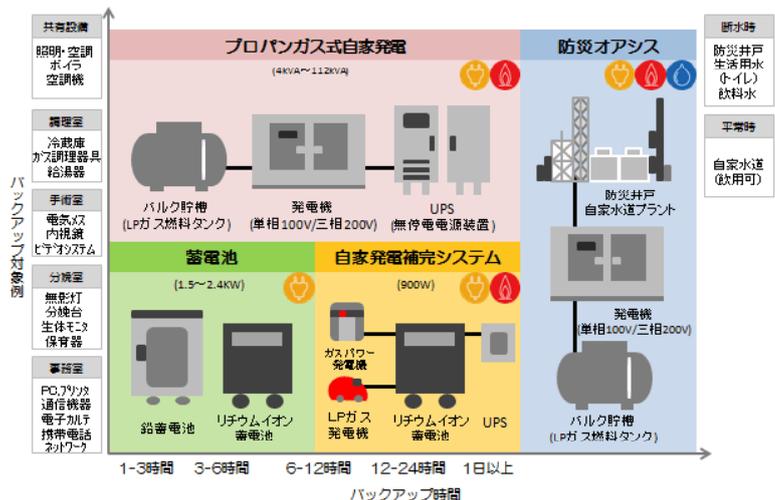
- 超低遅延8K対応HEVC/H.265配信装置開発（NEDO採択案件）
  - ・ ハード基板開発中
- 韓国で4K対応HEVC/H.265の評価中
  - ・ その他、既存製品も同時並行で販売
- フジテレビと共同開発した「H.264小型ライブ中継伝送装置」
  - ・ 複数社から引き合いあり。顧客にて評価開始
- NHKと共同開発した「IP蓄積伝送装置」の拡販強化
  - ・ NHK内での展開を図る
- 既存のH.264コーデック製品
  - ・ 公共向け監視カメラ装置の販売



H.264小型ライブ中継伝送装置  
(量産版)

- 事業の方向性
  - ・ スマートエネルギーソリューションの開拓・販売を通じて、エネルギー面からの持続可能な社会構築に貢献する

- 戦略
  - ・ 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
  - ・ ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築



## ■ 松信ウイメンズクリニック（千葉県）

- 導入の背景
  - 東日本大震災後の輪番停電により停電となったことがあり、停電時のお産に不安があり、長時間安心してバックアップ可能な設備を検討していた
- 導入結果
  - プロパンガス式自家発電システムを導入し、3日間以上の電力をバックアップが可能（分娩・手術室、陣痛室、新生児室、ナースステーションなど）
  - 井戸のポンプもバックアップし、断水時にも生活用水を確保可能
  - 都市ガス対応の給湯器をプロパンガス対応に変更し、災害時にもお湯が使用可能
  - 照明をLED化し、より低コストで小型な発電機にてバックアップ可能



クリニック外観



分娩室



屋上設置LPガス発電機  
(8kVA)



LPガス供給設備

## ■ 第60回日本透析医学会 学術集会総会 併設展示会に出展

- 透析機器に対する  
停電対策システムを紹介
- 実際のLPガス発電機の1/10スケールの  
模型とバックアップ例を提示



### 日本透析医学学会統計調査に基づく分析

東日本大震災の際に、一日でも透析室の操作が不可能となった施設は、全国で314施設に及んだ。東北、関東ではすべての県で操作不能の透析施設が存在し、その比率は宮城県:83.3%、茨城県:65.8%、福島県:56.5%、岩手県:35.3%。

震度別では、震度3~4における操作不能の理由はほとんどが停電であった。



**ご清聴ありがとうございました。**

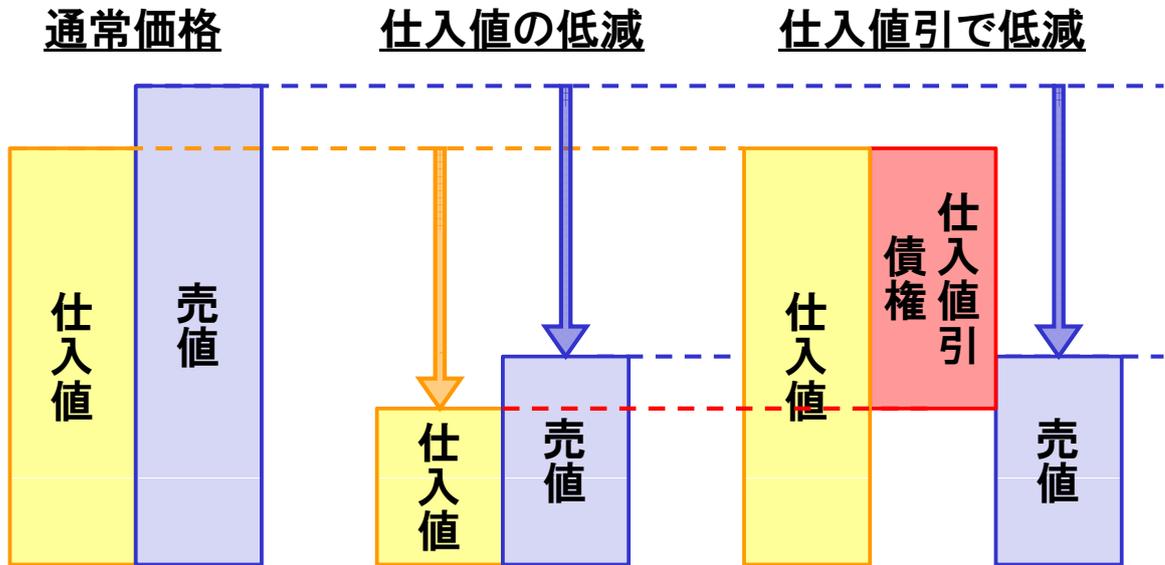
**参 考 資 料**

(百万円)	2015年12月期 業績予想 (4/9時点)			2015年12月期 業績予想 (8/5時点)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
半導体	11,670	12,680	24,350	12,524	13,325	25,850
FPGA	4,750	6,200	10,950	5,334	6,665	12,000
特定用途IC	3,500	3,100	6,600	3,217	3,082	6,300
汎用IC	1,520	1,400	2,920	1,850	1,499	3,350
アナログ	900	980	1,880	966	1,083	2,050
メモリ	1,000	1,000	2,000	1,155	994	2,150
デザインサービス	750	700	1,450	704	745	1,450
その他	80	120	200	79	120	200
売上高合計	12,500	13,500	26,000	13,308	14,191	27,500
営業利益	550	500	1,050	747	452	1,200

- 仕入値引債権とは
- 仕入値引債権の評価額変動リスク
- 調達在庫のレート変動リスク
- 決済時ドル調達レート変動リスク

## 仕入値引債権とは

- 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
- その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
- その実現方法には、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」の2パターンがある



FY2015 Q2 Results Reporting

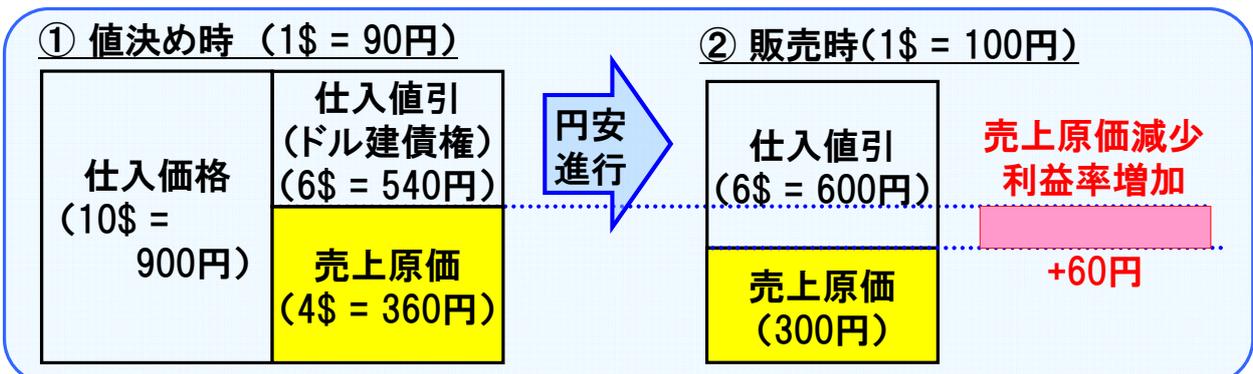
43

© 2015 PALTEK Corporation. All rights reserved.

## 仕入値引債権の評価額変動リスク

- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円安が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が増加

➡ **売上原価減少 → 利益率増加**



FY2015 Q2 Results Reporting

44

© 2015 PALTEK Corporation. All rights reserved.

**売上原価増加 → 利益率減少**

① 値決め時 (1\$ = 90円)

利益 (2\$ = 180円)	売値 (10\$ = 900円)
売上原価 (8\$ = 720円)	

円安  
進行

② 仕入⇒販売時(1\$ = 100円)

利益 100円
売上原価 (8\$=800円)

売上原価増加  
利益率減少

-80円

① 仕入時 (1\$ = 90円)

仕入 (8\$ = 720円)
--------------------

円安  
進行

② 販売・支払時(1\$ = 100円)

仕入値引債権 (6\$=600円)
----------------------

支払対象額  
(2\$=120円)

CASH  
(2\$=200円)

決済差額

-80円

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

## お問い合わせ先

株式会社PALTEK IR担当 柴崎 由記

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

E-mail :ir@paltek.co.jp